

感動の長野オリンピック
・パラリンピック



平成10年副議長
上川 博史

白馬村議会だより発刊から今号で第100号になり、この度の記念増補版の発行を心よりお祝い申し上げます。

長野オリンピック、パラリンピックが平成10年に大成功のうちに終了してから早いもので、多くの感動が脳裏にあるも、その中から何を書いたらいいのか迷います。招致の始まりは初代村長、太田新助氏の頃より苦節40年、



第44号 平成10年 4月30日発行
7位入賞の場に出掛け、

長い年月伝授され、イギリス・バーミンガムでの決定の瞬間までの忍耐と感動を、日赤病院にてテレビ速報を見て、早速白馬に戻り、留守番役議員として、狼煙の準備を整え村民への祝砲を打ち上げました。平成10年2月の開催に向け、心配された八方尾根のスタート地点や、ジャンプ台線の借地契約等、施設整備完了のために行政側の連日のご労苦で、期日までに準備万端整い、本番に向かうことが出来ました。ジャンプ・ラージヒルで金メダルに輝いた選手(原田、岡部、斉藤、舟木)の団体優勝の際は、雪の降り続く中でチアホーンでの応援や、写真を撮ったりしました。また、他競技選手の姿を一目見たいと、滑降スタート地点の八方尾根上部や、モーグル競技の上村愛子選手を応援しようとして飯綱会場に出掛け、

大活躍を祝福し、皆で記念写真を撮った時の感動は今でも思い出となっています。3月開催のパラリンピックでは、丸山直樹選手の応援に志賀会場に向き、コース中間地点で声援を送りました。また、野沢会場でのバイアスロン出場の小林深雪選手(伴走者:中村由紀選手)など、期間中テレビ放映に釘づけで、感動の連続でした。開催地としての感動を宝として、子孫に伝えていきたいものです。

して観光客に人気があり、周辺整備が強く望まれていました。村は平成14年から事業を開始し、18年に完成した。姫川の吊り橋の架け替え、トイレ、水車小屋等を設置し、北アルプスを背景に田舎の原風景を目で楽しめるようにしました。又、近くの古民家を改修し、地域住民の交流を図る「かっぱの館」やグリーンスポーツ施設に連なる自転車道なども作りました。開園式には村関係者、村議、近隣住民ら約80人が参加し安全祈願祭や鏡割り等が行われました。太田紘照村長は、「姫川や景観と融合した公園造りを進めてきました。観光立村の中で平地観光の一翼を担う施設と、地元住民が集い語らう場所として利用していただければ」とあいさつをしました。そして開園を祝ってのアトラクション、地元大出の老人クラ

白馬議会だより第80号
全国コンクールに入選



平成19年議長
下川 辰男

白馬村北城大出に整備を進めていた都市公園「大出公園」の開園式が、平成19年4月19日に現地で行われました。同地域は清流や、かやぶき屋根の風景に吊り橋の向こうに白馬三山を望む絶景スポットと



第80号 平成19年 5月2日発行

ブや婦人会員による「白馬小唄」などの踊りを披露し盛大に式典を祝いました。その、大出おどりの会の人達の年を感じさせない笑顔いっぱいのスナップ写真が、入選したのです。

平成20年2月29日、長野市で長野県町村議会議長会定期総会で表彰を受けました。全国から応募された何百という作品の中から、県下でただ一つ白馬村が受賞したのです。「元氣あるおばあちゃん達の笑顔が雪国のきびしさを忘れさせてくれる、すばらしい作品である。」というお言葉をいただきました。第100号記念誌に入選したときの「思い出」を掲載していただいた事に対し深く感謝を申し上げます。